CORE Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

〔生薬学雑誌，33，77（1979）〕

Pharmacognostical Studies on Mai-Men-Tung (V)
Historical Studies in the Chinese Herbals

TOSHIHIRO TANAKA, MIZUO MIZUNO, YUKIO NORO, KŌITI KIMURA

麦門冬の生薬学的研究（第5報）*
本草文献学的考察

田中俊弘，水野瑞夫，野呂征男**，木村康一***

本草文献に記載されている麦門冬の形態と産地および中国における *Ophiopogon* と *Liriope* の分布とを考察し，本草文献学的に正条な麦門冬基原植物を推定した。

麦門冬の形態について開宝本草(宋) には「……大者如鹿葱小者如韭葉大小有三四種…其子円碧…」，嘉祐本草(宋) には「…葉如韭…叢生……実青黄」,本草図経には「…葉似莎草長尺餘四季凋根黄白色有鬚根作連珠形似穬麦顆…四月淡紅花実碧円如珠江南出者葉大者如鹿葱小者如韭大小三四種…」と記載されている。これらの記載によれば常緑草本植物で，葉は線形で叢生し，種子は青色であるという *Ophiopogon* sp. の特徴を備えていることが判る。後世の本草綱目(明) と植物名実図考(清) には *Ophiopogon* sp. 特に *O. chekiangensis* を示す図が収載されている。

本草文献上麦門冬の産地には新安，睦州，浙中（浙江省），随州（湖北省），函谷（河南省），呉，江寧，上元，板橋（江蘇省）および江南(江蘇，安徽，江西の各省を示す）という地名が挙げられている。これらの地名は揚子江の河口部に集中している。現在でもこの地方が麦門冬の主な産地であるが，この地方での麦門冬生産は宋代から行なわれていたことを示すものである。

中国には *Ophiopogon* 43種，*Liriope* 5種が知られている。そのうち揚子江河口部の浙江，江蘇の各省に分布する *Ophiopogon* は *O. argyi*, *O. bodinieri*, *O. chekiangensis* の3種である。このうち *O. argyi* は1910年の原記載があるのみで以降の記録が見当らず一般的に知られている植物ではない。*O. bodinieri* は中国中～西部に分布し，江蘇省には記録があるが浙江省には分布していない。*O. chekiangensis* はこの地方に自生し，現在も麦門冬生産のために栽培されている。

以上を主な根拠として麦門冬の本草文献学的に正条な基原植物は *O. chekiangensis* であると推定することができる。

* 第4報：生薬学雑誌，32，212（1978）

** 名城大学薬学部
*** 東日本学園大学